

### ネクスティア生命、東日本大震災後のボランティアに関する実態調査を実施 被災地ボランティア、過半数が「1～2日」の参加で個人負担は「2万円未満」 ボランティア参加者の9割、継続参加の意向

インターネット販売専門の生命保険会社、ネクスティア生命保険株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:今井隆、URL:<http://www.nextialife.co.jp/>、以下「ネクスティア生命」)は、東日本大震災後の被災地でのボランティアに関する調査を行いました。※詳細については次頁<調査概要>をご参照下さい。

この結果、被災地でボランティアに参加した人約300人に聞いたところ **92.3%の人が「また参加したい」と回答**、しかし実際は **60.2%の人が「1回の参加」にとどまっている**ことが分かりました。また、滞在日数は「1日」が32.0%、「2日」が21.4%と続き、併せて「1～2日」が53.4%と過半数となりました。

個人で負担した費用については、「10,000円未満」が、28.8%で最も多く、続いて「10,000円以上20,000円未満」が21.7%となっており、**短期で費用をかけずにボランティア参加による支援が行われていることが分かりました。**

また、被災地でのボランティア経験はないが今後行きたい意思がある人約200人に対して、ボランティアの意思がありながら参加できなかった理由を聞いたところ、**まとまった休暇がとれなかったという回答が58.3%、普段の生活が忙しく余裕がなかったという回答が44.2%**であり、参加の障害として、**最大の要因が「時間」であることも分かりました。**

ネクスティア生命では、このような結果から、被災地ボランティアへの参加者を1人でも、1回でも増やすためには、自社の制度を充実させるとともに、政府や自治体、各企業が、ボランティア休暇の推進や参加費用の負担軽減など、制度や体制面を強化することが不可欠だと考えます。

以下は、アンケート内容のハイライトです。

#### 1. 現地での活動日数は「1～2日」が5割超。参加費用は「2万円未満」が5割 (図1、2)

被災地ボランティア参加者約300人の活動日数については、「1日」が32%、「2日」が21%となり、「1～2日」が5割超を占めていることが分かりました。また、1回の参加で自己負担した金額は、「10,000円未満」が29%、「10,000円以上20,000円未満」が22%と、「20,000円未満」で合わせると5割を占めています。

時間や費用について、必ずしも大きな負担をしなくても、ボランティアへの参加は可能である実態が浮かび上がりました。

#### 2. ボランティア参加者、9割以上が継続参加の意思表示 (図3)

東日本大震災後、被災地ボランティア参加者を対象に、被災地でのボランティア活動に今後も参加しようと思うか聞いたところ、「今後も積極的に参加したい」が35%、「今後も機会があれば参加したい」が57.3%と、92.3%の人が被災地でのボランティア活動に継続的参加の意向を示しています。

### 3. 被災地へ出向いた回数、「1回だけ行った」が6割（図4）

被災地でのボランティア活動の参加頻度については、「1回だけ行った」が60%で最も多く、「2～3回行った」(28%)、「4回以上行った」(12%)と続きます。ここでも、息の長いボランティア活動を後押しするための制度や体制が求められるといえそうです。

### 4. 被災地ボランティアに参加できなかった理由、約6割が休暇が取れないと回答（図5）

被災地ボランティア活動にまだ参加していない人約200人に、参加できなかった理由を聞いたところ、「まとまった休暇が取れなかったから」が58%で最も高く、参加の意思がある半数以上の人が、被災地での支援活動にはある程度の期間の休暇が必要であると考えていることが浮き彫りになりました。

### 5. ボランティアを後押しするサポート体制、1位は「ボランティア休暇」（図6）

ボランティア未参加者に対して、どのような制度や仕組みがあれば、被災地ボランティア活動に参加するか聞いたところ、「ボランティア休暇の取得」が49%で最も高く、ボランティア休暇制度導入が一層の後押しになることが分かりました。次いで「移動手段や宿泊先の確保」(46%)、「交通費の支給・補助」(44%)、「宿泊費の支給・補助」(41%)。

男女別に見ると、女性は男性に比べて、「移動手段や宿泊先の確保」「様々なボランティア活動のメニューの中から、自分にできることを自由に選べる」が高く、女性のボランティア参加を後押しするためには、不安要因を取り除く制度や取り組みが必要であることも分かりました。

#### <調査概要>

- 調査タイトル 「ボランティアに関する調査」
- 調査地域 全国(岩手県、宮城県、福島県を除く)
- 調査方法 インターネットリサーチ
- 調査時期 2011年6月30日(木)～7月1日(金)
- 調査対象 日本国内の15～59歳の男女
  - ①東日本大震災の被災地にボランティアで行ったことがある人 309人
  - ②東日本大震災の被災地にボランティアで行こうと思っている人(まだ行ってない人) 206人
- 有効回答数 515人(上記調査対象①+②)
- 実施機関 株式会社マクロミル

#### ■お客さまのお問い合わせ先

カスタマーサービスセンター 0120-953-831

月～金 9:00～22:00 土・日・祝日 9:00～18:00（年末年始の弊社休業日を除く）

#### ～本件に関するお問い合わせ先～

ネクスタリア生命保険株式会社 マーケティング・コミュニケーション部 広報 中本・上田

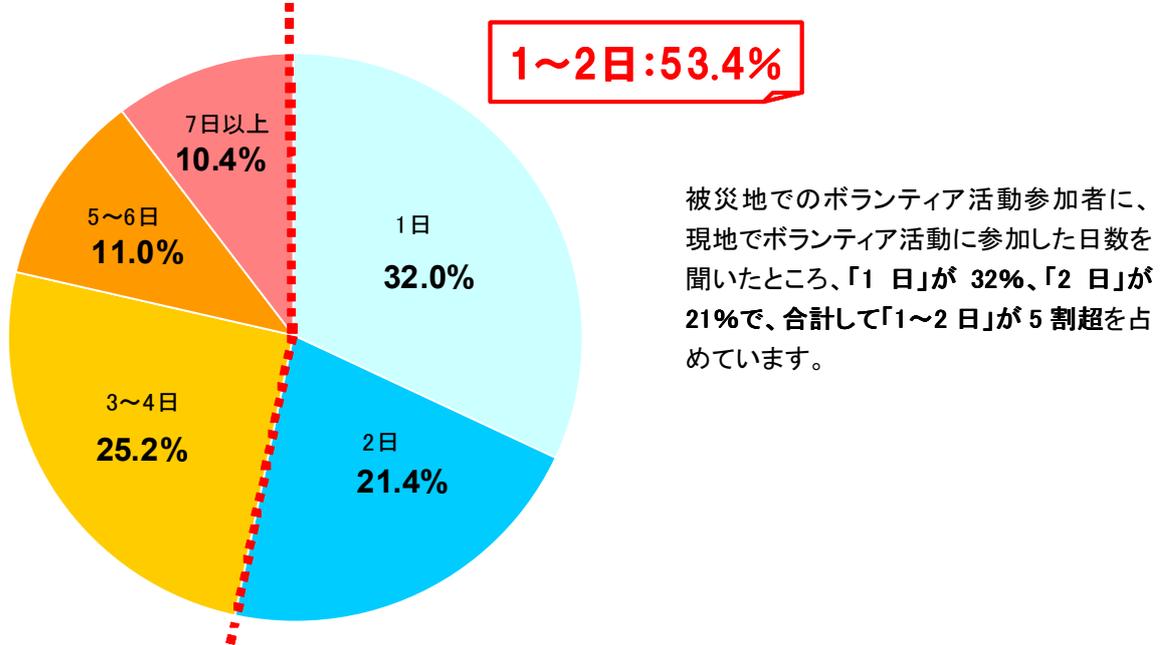
TEL : 03-5210-1538 FAX : 03-5210-1542

Eメール : communication@nextialife.co.jp

<http://www.nextialife.co.jp/>

【 図 1 】

●現地でボランティア活動に参加した日数

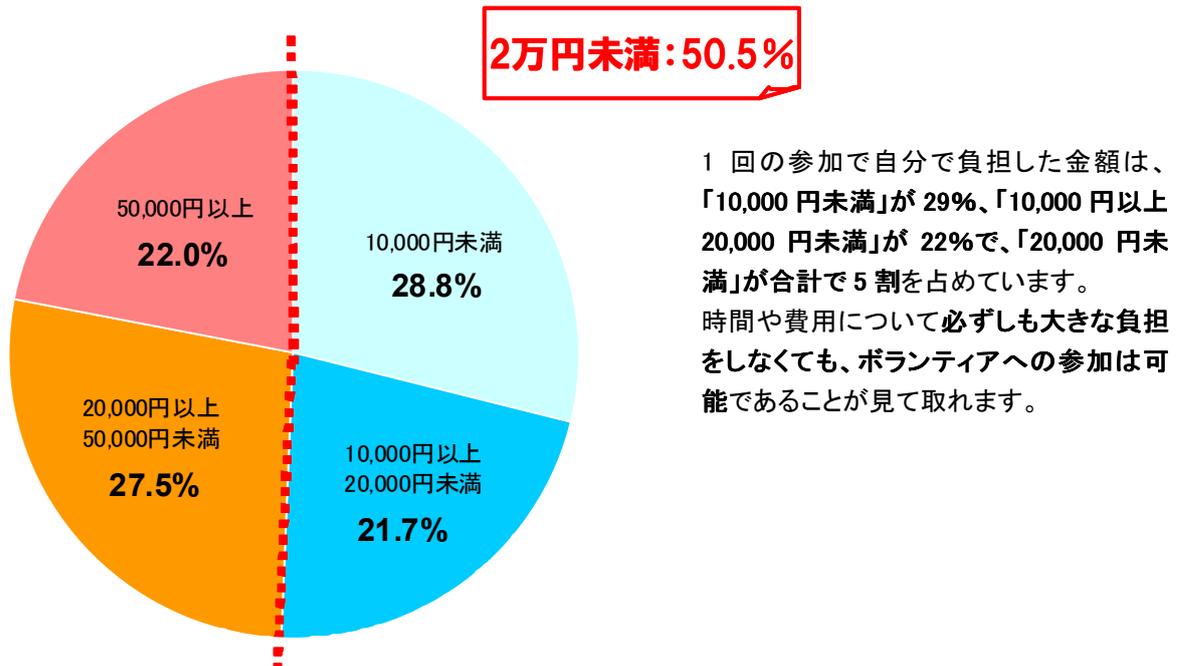


被災地でのボランティア活動参加者に、現地でボランティア活動に参加した日数を聞いたところ、「1日」が32%、「2日」が21%で、合計して「1~2日」が5割超を占めています。

【被災地ボランティア参加者(n=309)】

【 図 2 】

●ボランティアへの参加費用(1回あたり)

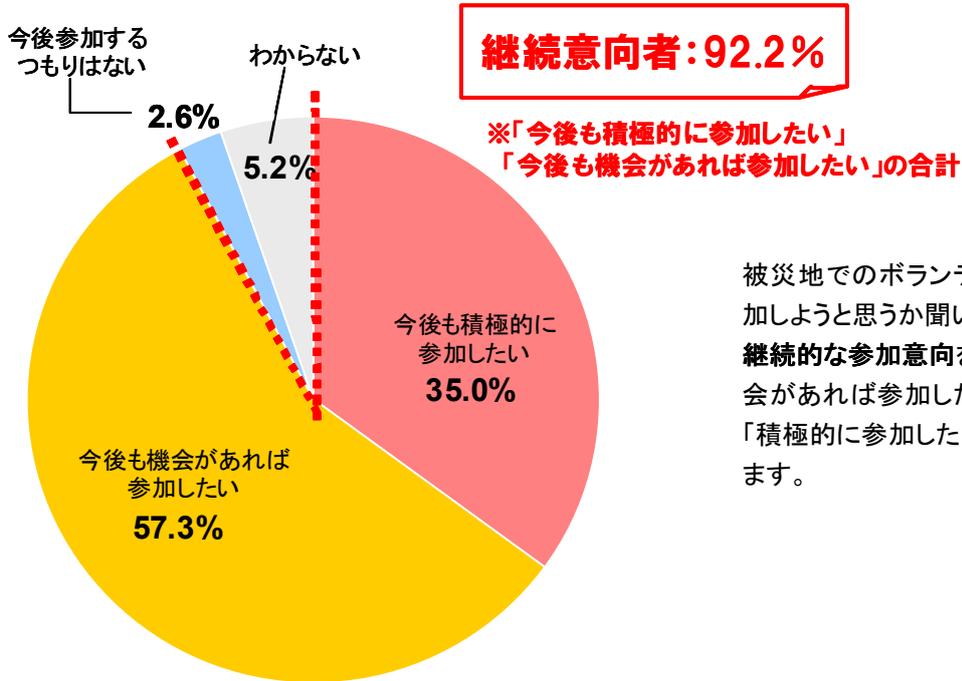


1回の参加で自分で負担した金額は、「10,000円未満」が29%、「10,000円以上20,000円未満」が22%で、「20,000円未満」が合計で5割を占めています。時間や費用について必ずしも大きな負担をしなくても、ボランティアへの参加は可能であることが見て取れます。

【被災地ボランティア参加者(n=309)】

【 図 3 】

### ●今後の継続参加意向

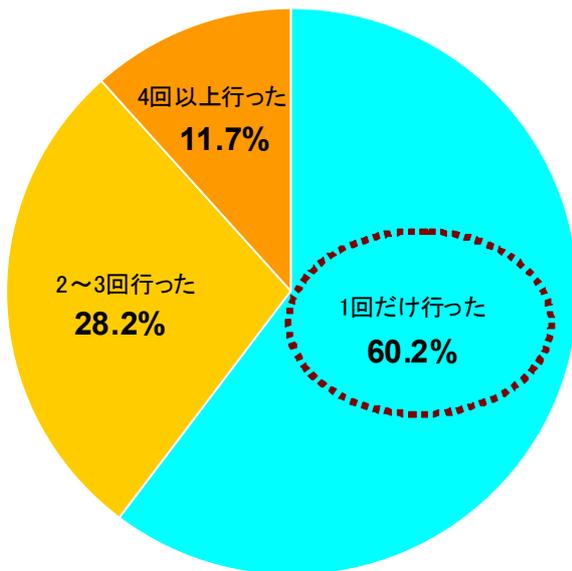


被災地でのボランティア活動に今後も参加しようと思うか聞いたところ、**9割以上が継続的な参加意向を示しています**が、「機会があれば参加したい」が 57%を占め、「積極的に参加したい」は 35%となっています。

【被災地ボランティア参加者(n=309)】

【 図 4 】

### ●ボランティアへの参加頻度

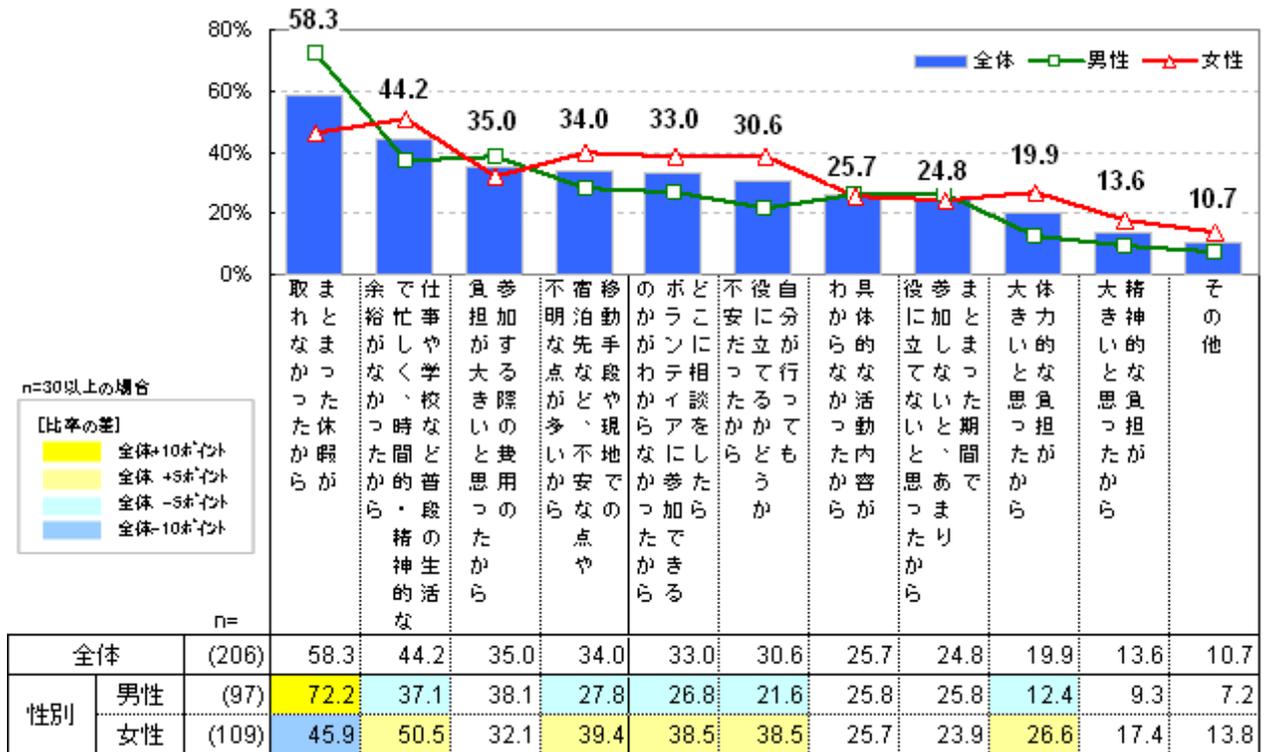


被災地に赴いた援助ボランティア活動にどのくらいの頻度で参加したかを聞いたところ、「**1回だけ行った**」が **60%**で最も多くの割合を占め、「**2~3回行った**」が 28%、「**4回以上行った**」は 12%でした。息の長いボランティア活動を後押しする制度や仕組みが求められそうです。

【ボランティア参加者(n=309)】

【 図 5 】

● ボランティアに参加できなかった理由

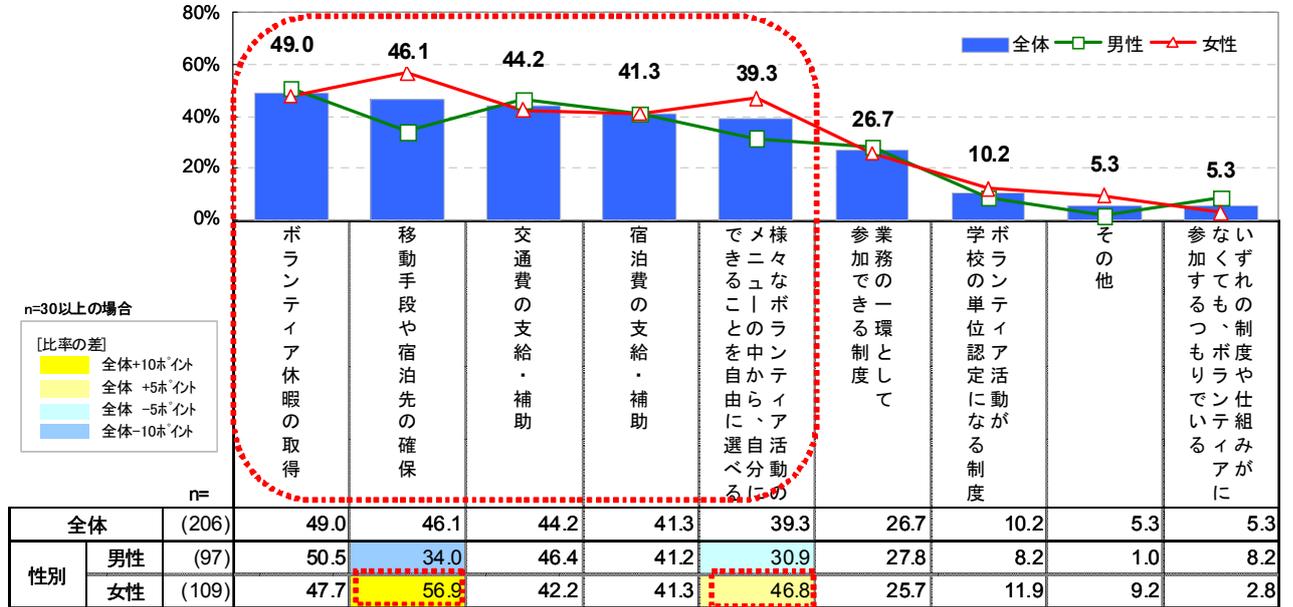


【 ボランティア未参加者(n=206) 】

- 参加したいと思いつつも、これまで参加できなかった理由を聞いたところ、「とまどった休暇が取れなかったから」が 58%で最も高く、「仕事や学校など普段の生活で忙しく、時間的・精神的な余裕がなかったから」が 44%で続いています。
- 男女別に見ると、女性は男性に比べて、「移動手段や現地での宿泊先など、不安な点や不明な点が多いから」「どこに相談をしたらボランティアに参加できるのかわからなかったから」「自分が行っても役に立てるかどうかわからなかったから」「不安だったから」「体力的な負担が大きかったから」といった理由が高くなっており、各種の不安要因が女性のボランティア参加の障壁となっているようです。

【 図 6 】

● ボランティアへの参加を後押しする制度・仕組み



【 ボランティア未参加者(n=206) 】

- どのような制度や仕組みがあれば、被災地でのボランティア活動に実際に参加すると思うかを聞いたところ、「ボランティア休暇の取得」が 49%で最も高く、次いで「移動手段や宿泊先の確保」(46%)、「交通費の支給・補助」(44%)、「宿泊費の支給・補助」(41%)、「様々なボランティア活動のメニューの中から、自分にできることを自由を選ぶ」(39%)が上位にあがっています。
- 男女別に見ると、女性は男性に比べて、「移動手段や宿泊先の確保」「様々なボランティア活動のメニューの中から、自分にできることを自由を選ぶ」が高くなっており、女性のボランティア参加を後押しするためには、前ページで明らかになったような不安要因を取り除く制度や取り組みが必要と考えられます。